

令和6年度京都府造血幹細胞移植対策連絡協議会

1 日 時 令和7年1月30日（木） 午後3時～午後4時30分

2 場 所 京都ガーデンパレス

3 出席者 委員：伊藤委員、上田委員、近藤委員、重見委員、島崎委員、谷脇委員、
豊本委員、鷺巣委員、夏日委員、野田委員、堀池委員、安井委員、
野々山委員

事務局：橋理事、薬務課職員

4 会長の選任

京都府赤十字血液センター 所長 堀池重夫委員に決定した。

5 骨髄バンクの現状と課題

講 師 公益財団法人日本骨髄バンク 主任 林 圭一 氏

○ 骨髄バンクの現状

- ・造血幹細胞提供まで、提供時の入院や採取後の健康診断を含めると、仕事を休む日数が10日以上に及ぶこともあり、休みが取れず、提供を断念するドナーは少なくない。
- ・若年層ドナーは「健康上の理由によるコーディネート終了」が少ない上、移植後の治療成績が良いと言われ、選ばれやすい傾向にあるが、登録者は40、50代が過半数を占める。

○ 若年層の登録推進に向けた取組

- ・令和8年度以降、スワブによる登録（対面での説明後、オンライン登録）フローを本格導入する予定
- ・同年代からの呼びかけを実施するため、若年層の説明員育成が重要
- ・大学等でのドナー公欠制度の導入や語りべ講演会の実施を推進

<主な意見等>

- ・（委員）これまでの語り部講演会の具体的な成果を教えてください。
→（林氏）滋賀県が取組を進められており、医療系の専門学校、高校等で実施いただいている。
- ・（委員）ドナー公欠制度を導入した学校の数とその分布はいかが。
→（林氏）本日時点では15校である。一番多いのは九州地方である。中国・四国地方は学生がサークル等で呼びかけしており、その延長でドナー公欠制度が導入されている。九州地方は議員からの呼びかけで導入された学校がある。
- ・（委員）今後、完全にスワブ検査へ移行するのか。従来の検体は残すのか。
→（林氏）スワブ検査と従来の手法の併用が必要だと考えている。
- ・（委員）ドナー公欠制度が広がらない具体的な理由は何か。
→（林氏）大学の先生から、休んだ授業を担保することが難しいと聞いている。

今の学生は朝から晩までみっちり授業がある。コロナ禍でオンラインであった授業が対面に戻ってきている。こうした現状をクリアできれば制度の導入は進むと考えている。

→（委員）コロナ禍でオンライン授業や授業を動画で配信する等のノウハウができたことにより、以前と比べて導入しやすくなった可能性があると考えて良いか。

→（林氏）そう考えている。

・（委員）コーディネート終了理由に「連絡とれず」とあるが、具体的な状況を伺いたい。

→（林氏）日本赤十字社血液センターの協力を得て、年1回骨髄バンクニュース等を送付し、連絡先等に変更がないか確認している。「連絡とれず」には、ドナー適合したときに期限内に連絡が取れなかった方も含まれている。

→（委員）定期的に呼びかけ等連絡がとれるように努力されているという認識でよいか。

→（林氏）そうである。また、日赤の支援を得て献血の登録情報を活用して確認するとともに、新たに骨髄バンクのLINE登録を始めている。

・（委員）日本骨髄バンクと臍帯血バンクの関わりについて伺いたい。

→（林氏）造血幹細胞移植対策の観点では全く同じであり、国の協議会等接点はあるが、日本骨髄バンクとしては、臍帯血バンクのことは関知していない。

6 京都府における造血幹細胞移植対策等について

京都府説明

<主な意見等>

・（委員）人口当たりの骨髄ドナー登録者数について京都府は上位と説明があったが要因は何か。また、先ほどの講演の中で、中国・四国地方では大学のサークルで取組されていると話があったが、府内の大学において、同様の取組がされているか把握しているか。

→（事務局）要因は把握していない。また、府内大学のサークルについても把握していない。

・（委員）学校と連携した献血併行型登録会の学校とは医療系の大学か。

→（事務局）医療系に限らずあらゆる大学で実施している。

→（委員）大学で実施している職員からの意見として、学生は授業の合間に来ているので、ドナー登録の説明をできるだけ簡潔にさせていただきたいという話がある。

・（委員）若年層への呼びかけはInstagramが効果的だと思うが、取組されていく認識でよいか。

→（事務局）SNS等も活用していきたい。具体的にどのSNSを活用するかについては手法も含めて検討していきたい。

→（委員）Instagram等勝手に流れてくるものが目に入りやすいと思うので、ぜひ検討いただきたい。

→（委員）血液センターにおいてもSNSの積極的な活用に取り組んでいる。

- ・（委員）医療系の大学だと授業で話を聞いてよく理解していると思う。医療系の大学に話をした方が登録を進むのではないか。
 - （事務局）御意見を踏まえて手法について検討していく。
- ・（委員）ライオンズクラブでは献血に取り組んでいるが、こういった形で献血併行型登録会を実施しているのか。
 - （委員）献血実施日に日本骨髄バンクから併行型登録会実施の依頼があり、説明員を2名程派遣いただいて実施している。
 - （委員）ライオンズクラブで実施している献血でも声掛けをできればと思った。
 - （事務局）非常にありがたいと思っている。現状では、事前説明、同意、採血を会場で実施する必要があり、登録希望者の時間の制約もあるが、スワブ検査の導入がされると、その場では説明のみになるため、より各所とも連携しやすくなると考えている。
- ・（委員）我々もいかに若年層へメッセージを届けるのか試行錯誤しながら取り組んでいる。ターゲット、目的を踏まえてメッセージの出し方を考える必要がある。
- ・（委員）京都は学生が多いが、卒業等のタイミングで府外に出る学生が多い。LINE等で繋がってフォローアップをしっかりとさせていただきたい。同時に、セキュリティの観点を踏まえた運用をしていただきたい。
- ・（委員）臍帯血バンクについて、施設の増加、一般向け情報周知等の取組をお願いしたい。
 - （事務局）採取施設は、現状、府内で4施設。出産のタイミングで採取するため、技術的な面と対応可能な人員体制確保の課題があり、どのように増やしていくのか難しいところである。一般向けの広報についても、広く周知をしても、4施設で出産される方のみが対象となる。効果的な広報の方法等、さらに検討を進めていきたいと考えているので、引き続き御意見賜りたい。
 - （委員）臍帯血はこれまで捨てていた部分を利用するものであるが、採取した臍帯血が実際に利用できる確率は驚くほど低い。技術的に難しい側面があるので、簡単に施設を増やせるものではないことを申し添えておく。

7 その他 特になし